

釧路湿原総合調査

定期的な調査により、釧路湿原に住む昆虫たちの生息環境に関する知見が得られます。4年ごとの調査活動には、釧路市立博物館の職員、野生生物の専門家および地元の子どもたちが参加します。このことは、地域にとっての釧路湿原の重要性を実証しています。

この調査が1971年に始まってから、参加者たちは1,150種の昆虫を見つけました。この数には46種のトンボと84種のチョウが含まれており、その多くが博物館に展示されています。この調査は、ラムサール条約(Ramsar Convention)による保全地区として指定された地域において役割を果たしました。ラムサール条約とは、湿地の保存のための国際条約です。釧路湿原は、釧路湿原国立公園の一部です。